

岩手県内の市町村担当者による橋梁点検研修を実施しました ～～近接目視、打音検査等を体験し、技術を養成～～

平成26年8月27日、岩手県内の市町村道路管理担当者を対象に、竣工後46年を経過した盛岡市浅岸地内の市道大塚浅岸線「浅岸橋」において、近接目視や打音による橋梁点検実習を実施しました。

平成26年7月1日より国土交通省令が施行され、トンネル・橋等の点検は、点検の質を確保するため、近接目視により5年に1回の頻度での定期点検が義務付けられましたが、多くの市町村においては、橋梁に関する専門的な技術力不足が大きな課題です。



このため、道路施設管理を担当している岩手県内各市町村の職員を対象に、実際の橋梁を各部位ごとに自ら点検することを通して、維持管理の重要性や老朽化対策に関する理解を深めていただくことを目的に、点検実習を実施したものです。

今回は5月20日に設立した「岩手県道路メンテナンス会議」の構成機関である県内33市町村のうち、26市町村、計37名の担当職員の参加がありました。

■参加者：岩手県内市町村の道路管理担当者 37名

■主催：岩手県道路メンテナンス会議

■点検橋梁：盛岡市道 大塚浅岸線「浅岸橋(あさぎしばし)」
橋長58.0m、幅員5.7m(2車線)、橋梁形式＝3径間単純鋼 I 桁橋
竣工1968(S43)年、築46年経過

■実習内容：①点検ハンマーを使用した打音による床版下面・橋脚(下部工)の点検
②足場を利用した近接目視による床版のひび割れ状況確認
③近接目視による鋼桁や支承等の腐食等損傷状況確認



▲講習会の様子



▲床版の打音による点検状況



▲クラックスケールによるひび割れ状況の確認



▲地覆コンクリート剥離状況の確認



▲桁端・杓廻りの損傷状況確認



▲意見交換